

### ③川の名は…



校庭を流れ、勉強に疲れた生徒たちに語りいの場をもたらしてくれる地蔵川。幅4メートル余りのこの川の正式な名は「祇園用水」です。玉柏地区の旭川に端を発した用水は祇園地区を通過して南下し、母校に流れ込みます。この用水がなぜ「地蔵川」とも呼ばれるのでしょうか。

実は用水のほわりには二人のお地蔵様が居られるのです。まず、用水の始まりに近い牟佐地区を見下ろしている巨岩が「地蔵岩」。そして校庭を横切って東山の電車通りに達すると、そのほりに居られるのが「水はまり地蔵」です。

地蔵川の面白さはこれだけではありません。その流路、一度地図で調べてみませんか。

### ④校内に民家が



今年70歳くらいの方がこんな話をしてくれました。「中学生のころ朝日高内に住んでいました。最初居たのは宿直室。その後家事室の東の家に移って2年間暮らしました。家賃は払っていませんでした。その当時テニスコートの北側の家に、鳥城高校の教頭先生ご夫妻も住んでおられました。また奥の建物には子どもの姿もありました。」

六高時代、地蔵川の辺りには長く大きな建物がありました。しかし岡山空襲でそのほとんどが焼失してしまいます。戦争が終わってしばらくすると、国の手で建物は再建されましたが、市街地の住宅事情は最悪で借家を探すこ

とは難しく、空いた建物に学校関係者が入居することは珍しくありませんでした。

### ⑤美しい庭園跡



第六高等学校が造成される前、現在の六高記念館辺りには武家屋敷がありました。備前池田家でも地位の高い家臣の別宅だと言われ、屋敷の東には二つの島を持つ立派な庭園がありました。屋敷そのものは校地造成の時に撤去されましたが庭は残り、後に娯楽室や集会所が庭の池に接して建てられました。広い池の水は操山からの湧き水で賄われ、池を通った水は地蔵川に流れていました。

空襲によって娯楽室などの建物が失われ、残った庭も南の部分は新校舎建設の時に残土で潰されました。しかし北側の池は現在の六高記念館建設の際、改めて周囲や底をコンクリートで巻き直して今の姿となり、四季折々の美しい風情を見せてくれています。

### ⑥校門前の並木道



朝日高校の校門から目の前の国道まで通じる長さ100メートル余りの並木道。その並木の幅が道幅に比べて妙に狭いと思ったことはありませんか。

六高が出来た頃、校地は周囲の田んぼに比べて何メートルも高く、校門から西に延びる通学路は盛土の上を通っていました。並木はその法面の内側に植えられました。後に周囲が宅地化されて通学路の高さになり、樹木は法面の幅だけ内側に並んだと言う訳です。

### ⑦それ石碑です



朝日高校の敷地内には六高時代のもも含めてたくさんの石碑が立っています。でも運動場の東隅に行む大きくて平たい石がその仲間であることはあまり知られていないのでしょうか。写真撮ったこの日、ちょうどハンドボール部員が荷物置きに利用している場面に出くわしました。彼らの足元にはちゃんと「卒業三十周年記念石・昭六会」の銘板が見えるのですが…

ただ、この石碑、わざわざ記念「石」としていると言う事は、初めからこんな風に使ってもらおうと作られたのかも知れませんが、ご存命でも103歳。探したけれど見つけることが出来ませんでした。

### ⑧使わないプール



校庭の隅にフェンスで囲まれ荒れ果てたプールがあります。かつては授業に使われていたこの施設、今では巨大な防火用水にも見えます。それもそのはず、昭和8年当時六高校友会が建設費を支出したこの施設は文部省に「防火用水施設」として届けられたそうです。

東西25メートルのプールは建設当時水泳部の練習に使われ、南東部には飛び込み台やプールハウスも作られて